裁判員等経験者との意見交換会（令和８年６月１５日開催）

裁判員制度

Ａさん

・集中審理で、責任やプレッシャーもあったが、被告人の人生を左右することに一般市民が関わるという、大変な中でも貴重な経験だった。
・傍聴人が多かったが、裁判官が緊張しない雰囲気づくりをしてくれたので、緊張より使命感の方が勝り、集中して取り組めた。

Ｂさん

・証人尋問や被告人質問では、他の人がしっかり質問しており、自分も真剣に向き合わなければと思い、頑張って質問することができた。
・量刑の判断は難しかったが、しっかりと話し合い、それぞれの思いが反映されたと思う。

Ｃさん

・審理後に職場に戻って仕事もでき、家では裁判のことを考えず、気持ちを切り替えて落ち着いて日々裁判に臨むことができた。
・裁判官に話を聞いてみたり、皆で雑談を交えつつ終始和やかな雰囲気でできたこともあり、忌憚のない意見を述べることができた。

Ｄさん

・裁判はこれまで身近ではなかったが、知らない人同士でも率直な意見を出すことができたので、ご自身の都合が付く限り、ぜひ経験してもらいたい。
・裁判員等を経験して、あえて反対の立場について考えることで、見えていなかった部分に気付けるようになった。

Ｅさん

・あまり裁判に興味がなかったが、興味を持てるようになったし、被告人の人生の背景などを考えることも大切だと思うようになった。
・正当防衛の成否や殺意が争点で最初は理解できなかったが、評議が終わるたびに裁判官がフィードバックしてくれたので、徐々に理解が深まり、意見を言えるようになった。

司会裁判官からひとこと

将来の裁判員等候補者に伝えたいこととして、皆様から「事件に関わった人たちの人生に触れ、大変な判断に関わることになったが、貴重な経験となった」「都合が付く限りぜひ経験してもらいたい」などという好意的なご意見をいただけたことに感謝するとともに、気が引き締まる思いです。

何が争点でどんなことに着目したらいいのか、どう工夫して証拠調べにつなげていくことができるのかなど、いつも考えながら審理に臨んではいますが、法曹三者、まだまだ努力しなければならないと感じています。このたびは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

ご参加の皆さま、ありがとうございました。